

滋賀県文化審議会評価部会第 14 回会議の概要

1. 開催日時

平成 30 年 3 月 13 日（火）10:00～12:00 滋賀県庁北新館 5－B 会議室

2. 議 題

- (1) 平成 29 年度個別事業評価について
- (2) アートマネジメントセミナーの実施について
- (3) 文化プログラムの推進について

3. 主な意見等

議題 (1) 平成 29 年度個別事業評価について

○アール・ブリュットによる『ひと・まち・空間』形成事業

「湖北のアール・ブリュット展 2017・まちなかアール・ブリュット」

- ・会期初日ということもあったが、長浜のまちが少しさみしい休日という印象を受けた。試みとしては面白いと思うので継続して行ってほしい。
- ・アール・ブリュットが障害者のものという認識があるなかで、まちなかで展示されていたことは面白い。まちなかで歓迎しているイメージがあり、世界に発信できる取組であると感じた。しかし、まだ壁も感じる。うまく広報ツールなどをプラスしながら発展し、滋賀県が誇れるものになってもらいたい。

○滋賀県立文化産業交流会館 音楽劇「美味しいメロディ改」

- ・参加者が努力しているのは分かったが、焦点がぼやけてしまっているように感じた。お客様に舞台芸術を見てもらうという壁を突破できなかった。演奏は良かったが、ジャズバンドがとても唐突な感じがした。
- ・演奏は良かったと思うが、演出家が企画意図をどれだけ理解しているのか疑問を感じた。
- ・事業のねらい、コンセプトが世代間交流や地域間交流の起爆剤的な位置付けなら良いが、舞台の完成度に緊張がないように感じた。教育の事業としてであれば良いが、どっちつかずの印象をもった。

議題 (2) アートマネジメントセミナーの実施について

- ・地域創造や公立文化施設協議会が求めるレベルの研修をしているので、レベルが高すぎるのではないか。講師陣は良い人を呼んでいる。他に市町の文化振興担当課職員向けの研修ができないか。社会包摂の方向でコースを組めば、本庁の人も参加できると思う。
- ・県民コーディネーターが必要。どういうレベルでどういう仕事をするかを定義づけるのは難しい。
- ・参加者を広く募るためには成果がないと集まらない。たとえば、いくつかのランクに分けて、セミナー修了証を出して「しがアートマネージャー」のような資格を作ってみれば良いと思う。また、そのような講座を受けた人の活躍の場があるほうが良い。
- ・子どものコミュニケーション能力を高めるために地域の活動をしている方がいる。文化

の力が必要であり、地域コーディネーターがこのような講座を受ければ、文化をコミュニケーションツールとして使える。

- ・首都圏を中心に地域の芸術と子どもをつなぐコーディネーターの育成に取り組んでいる。そのような人材のいる地域は活性化している。ただし、少なくとも短期大学程度の学習量が必要。行政担当者のレベルも上げる必要がある。また、劇場、音楽堂だけでなく、図書館・公民館などの生涯学習分野にもこういった講座が必要。
- ・入り口にたったら進む人はいるはず。まずは講習を受けて、実習は上の方に設定して、裾野を広げることも必要。茶道や華道の仕組みを取り込んではどうか。
- ・生涯学習の手法で、学んだ人が次の講師になっていくということも考えられる。
- ・劇場、音楽堂と県民をつなぐコーディネーターが必要。地元でそういう人材がなければ続かない。

議題(3) 文化プログラムの推進について

- ・beyond というからには、2020 以降も続くものでないといけない。滋賀県らしい文化ということが一番重要。滋賀県らしいとはどういうことなのかを考えていくべき。
- ・子ども・若者に主役になってもらって楽しんでもらうという風に特化すべき。
- ・伝統にこだわって、枠を決めてしまうと決まりきったものになる恐れがある。
- ・成安造形大学が開催した滋賀の伝統とのコラボのようなもの。滋賀の伝統的な暮らしを記憶するような事業が必要。滋賀県らしさの足掛かりになると思う。
- ・オリンピックのレガシーという言葉を使うならば、人材など後に残るものが必要になる。
- ・大学や高校等の文化祭や大学祭に参画してもらうことから始めてはどうか。

以上